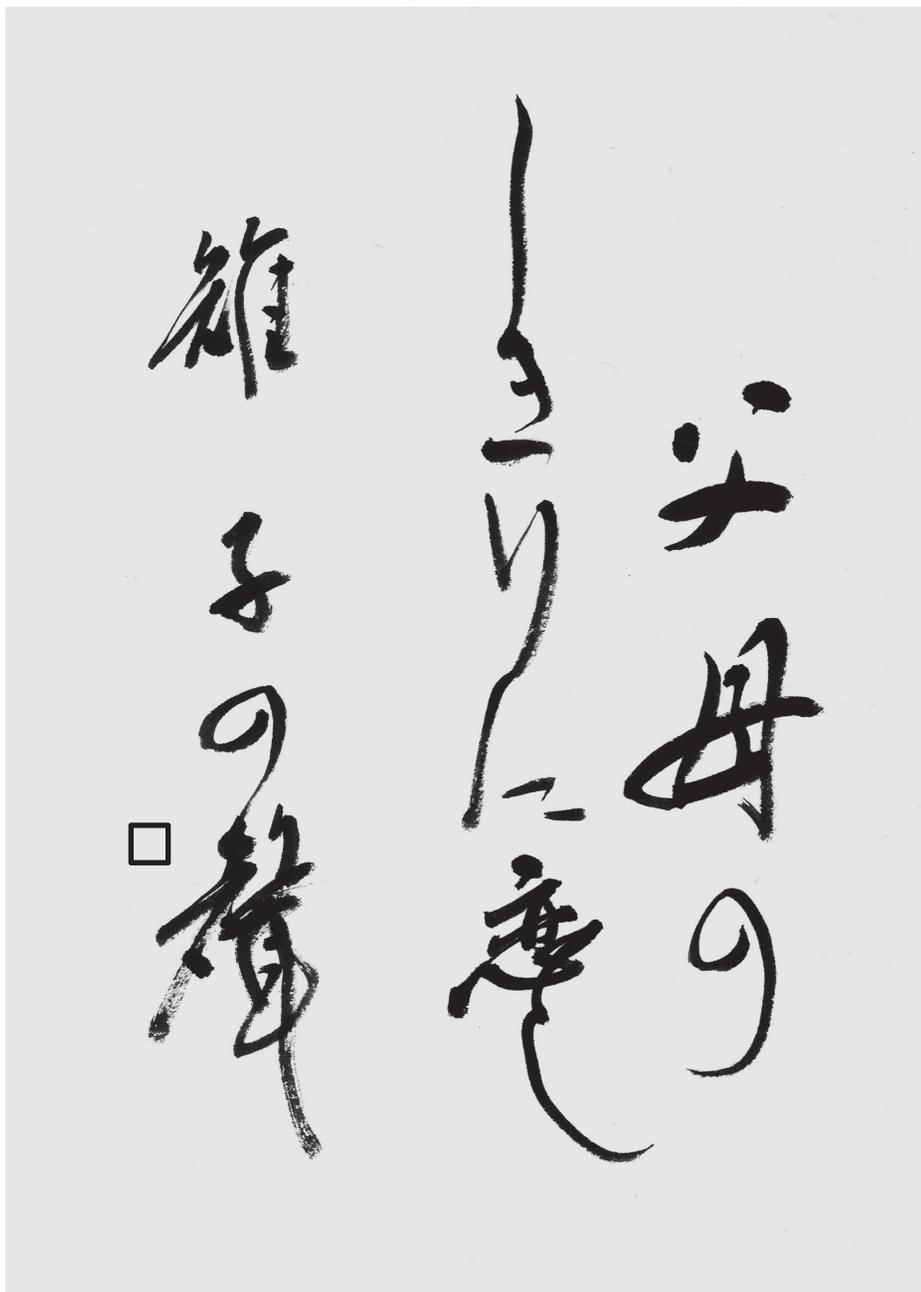


調和体を書く (18)

締切り 六月二十五日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書展の一部門を占めています。

◆読める書として人気を高めています。が、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体で新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に関係していた頃の「新和様」のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいります。

〔読み〕

父母ちちのははのしきりに恋こひし

雄子おとこの聲こゑ

〔解説〕

①可読性を大切に。

②変体仮名・連綿はなるべく控える。

③構成を工夫してみよう。

※落款(署名・捺印)は、作品の一部としてバランスよく収めて下さい。

※印のない方は、赤ペンで□を書き入れて下さい。

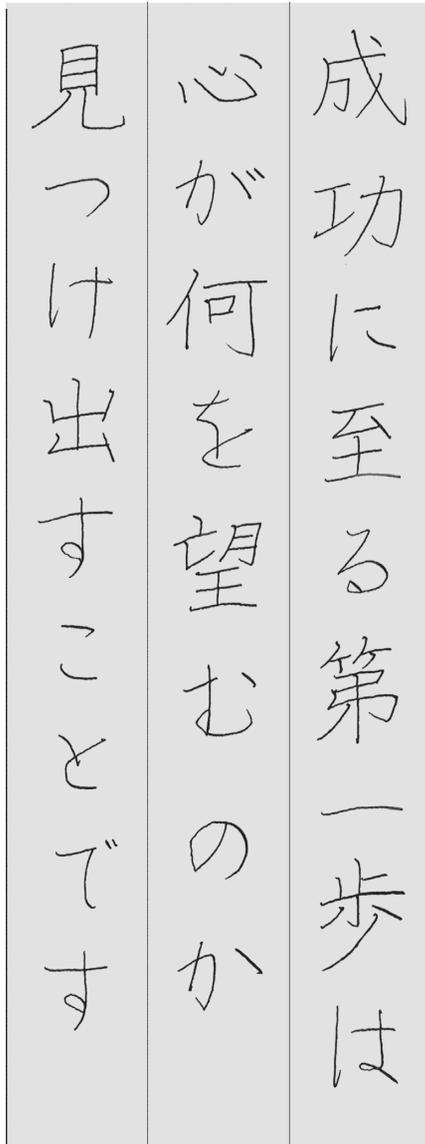
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



◎楷書は一本の線の引き方が大切。横線の太細の変化を精習すれば作品も向上し、競書の成績も自然に上位へ行く。
 ▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
 岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
 大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇨楷書
 ▼師範⇨行草または草書

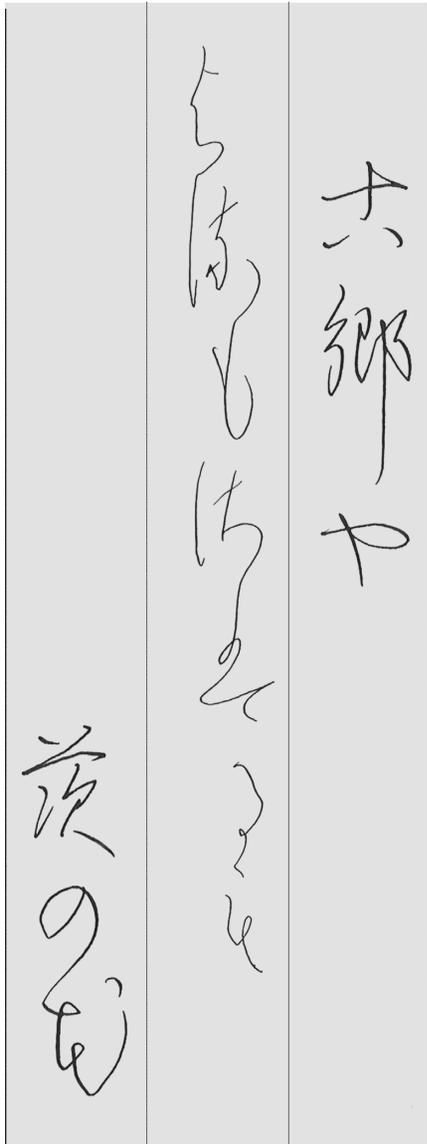
◆7月課題予告(行書)
 修業に正邪二つあり
 正道に志せば上達し
 邪道に志せば下達する

★成功に：(書体⇨楷書)
 カント(二七四一六四)
 ドイツの哲学者
 カントは自分自身が何を望んでいるかが、はっきり分らないうちは何を期待しても駄目だと言っています。
 また他人が好ましいと望んでいるものではなく、自分が心から望んでいるものをみつけることこそが、人生で一番の課題ではないでしょうか。

◆7月課題予告(楷書)
 物事は何故
 如何にしてという
 原因と理由がある
 ★全ての：(書体⇨行書)
 カーライル(五五二八八)
 イギリスの歴史家
 大企業や偉大な発明、新分野の開発などは、スタート時点では誰もが出来るはずがないと疑うものです。
 何事も幾多の失敗、挫折を経験し、それを乗り越えて諦めず努力した結果、不可能と思われていた事柄が遂には可能となることでしょう。

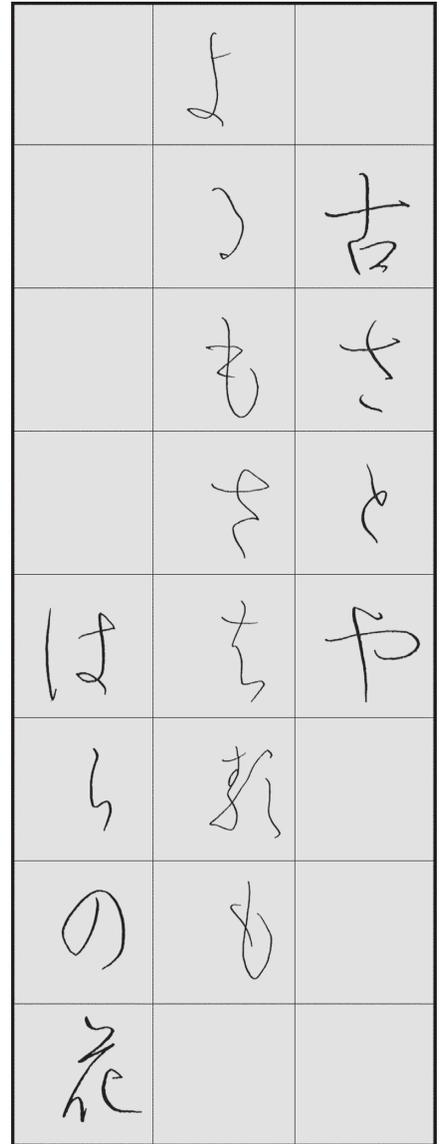
準初段から六段まで

新入から1級まで



古郷与流やよるも佐盤さはるも毛茨の花

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



古郷者類やよるもはらさはるも茨の花

た なか き こう 書
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書
田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆7月課題予告

蚊ばしらや棗の花の散るあたり

(加藤暁台)

【解説】「古」の「口」の草書は「ハ」と書きますが方向を変えて書きます。「流」の変体仮名「も」も最後の画は方向に変化をつけます。

流る 佐き 者は 類る 毛も
 流る 佐き 者は 類る 毛も

【古筆参考】

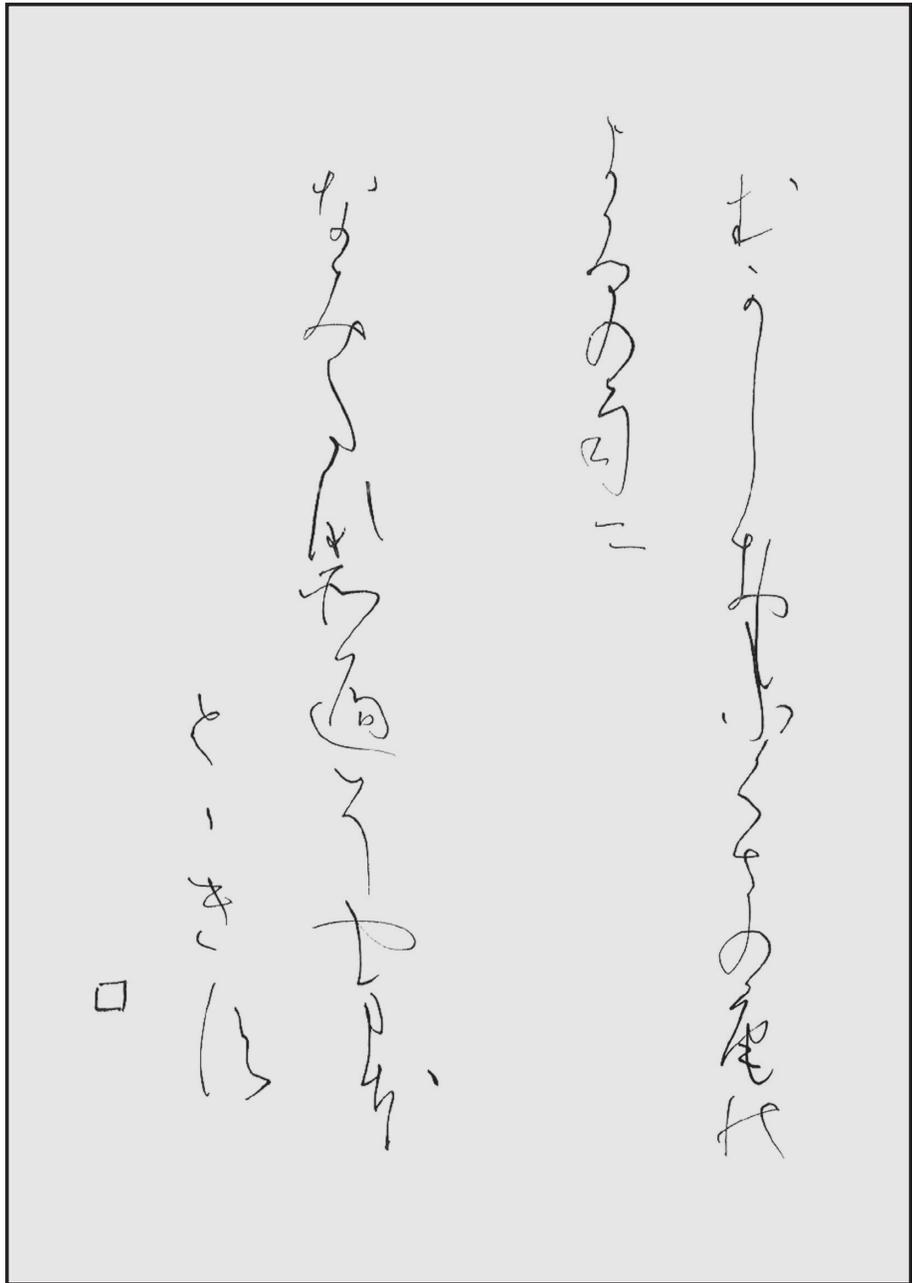
外に隠されている。「古郷」は夏の季語で、棘(敵意)が言をぶちまけたのがこの句である。「茨」
 一つもてなしてくれず、その時の憤懣
 村長の名主嘉左衛門から取りもどそう
 〔鑑賞〕預けておいた亡父の遺言状を
 け。なんといまましいことだ。
 意をもち、どちらを向いても棘だら
 家族ばかりか、だれもかれも自分に敵
 〔句解〕はるばるやって来た故郷は、

古郷やよるもさはるも茨の花

(小林一茶)

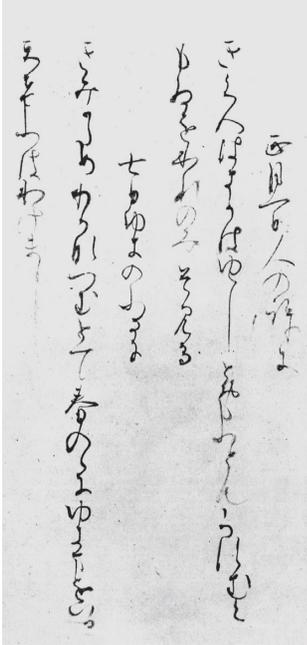
締切り 六月二十五日(必着)

築瀬舟香書



〔古筆参考〕

和泉式部続集切



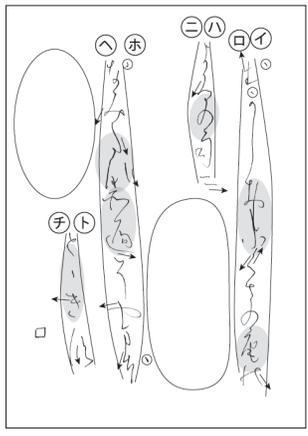
正月一日人の許に
 大 人 は き か ば ゆ し と お も ふ と ん か す む く
 小 七 日 ゆ き の ふ る に
 大 七 日 ゆ き の ふ る に
 小 七 日 ゆ き の ふ る に
 大 七 日 ゆ き の ふ る に
 小 七 日 ゆ き の ふ る に
 大 七 日 ゆ き の ふ る に
 小 七 日 ゆ き の ふ る に
 大 七 日 ゆ き の ふ る に
 小 七 日 ゆ き の ふ る に

昔思ふ草の庵のよるの雨に
 涙な添へそやまほととぎす

〔歌意〕夜、雨の降り注ぐ庵の中で、昔のことをなつかしく思い出して、わたしは涙にくれている、山ほととぎすよ。悲しい声で鳴いて、その上さらに涙の雨を、添えてくれるな。

〔出典〕新古今和歌集
 (新潮日本古典集成)

〔解説〕



- の位置、∨の方向大切。
- 余白大切、●行の動き大切。
- それぞれ呼応。

◆7月課題予告

ことしより花咲きそむるたちばなの
 いかで昔の香ににほふらむ

締切り 6月25日(必着)

今年は例年より早めの梅雨入りになるそうです。鉛色の空が続くと憂鬱ゆううつになります。雨にはしゃぐ子供達の可愛いレインコート姿を眺めると、心が癒いされ明るく爽やかな気分になります。

今年は例年より早めの梅雨入りに
なるそうです。鉛色の空が続くと
憂鬱ゆううつになります。雨にはしゃぐ
子供達の可愛いレインコート姿を
眺めると、心が癒いされ明るく
爽やかな気分になります。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

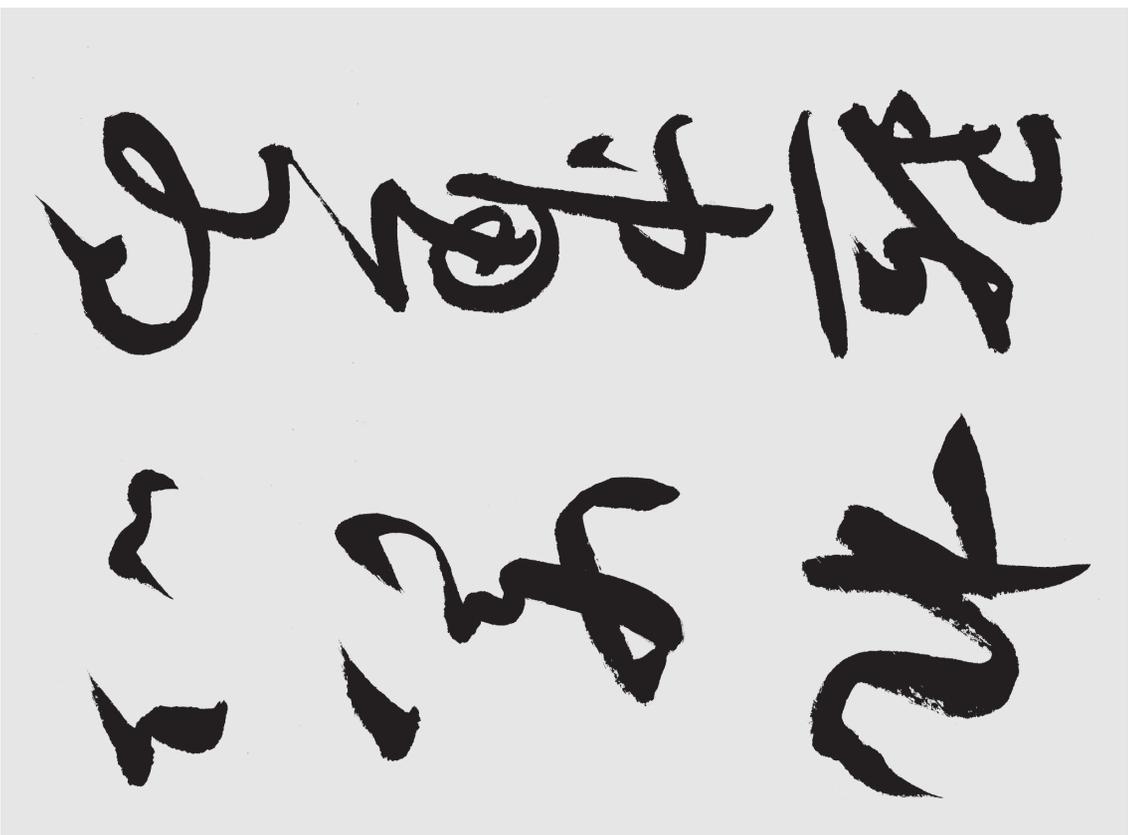
明治10年6月1日、気象庁の前身
である中央気象台が発足した。

高知県南国市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

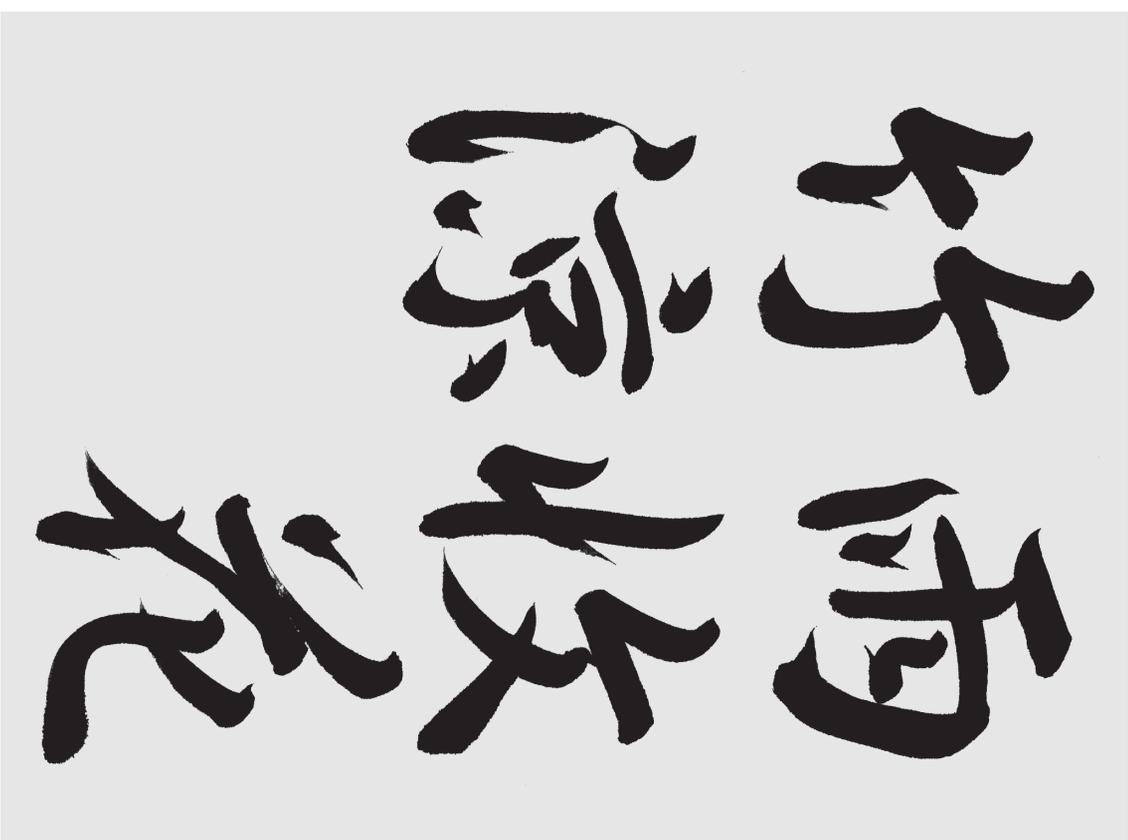
一般部毛筆漢字課題

締切り 6月25日(必着)



準初段から師範まで

奥村暢之 臨



新入から1級まで(行書)

須田一葉 書



礼 眞以点 畫 爲

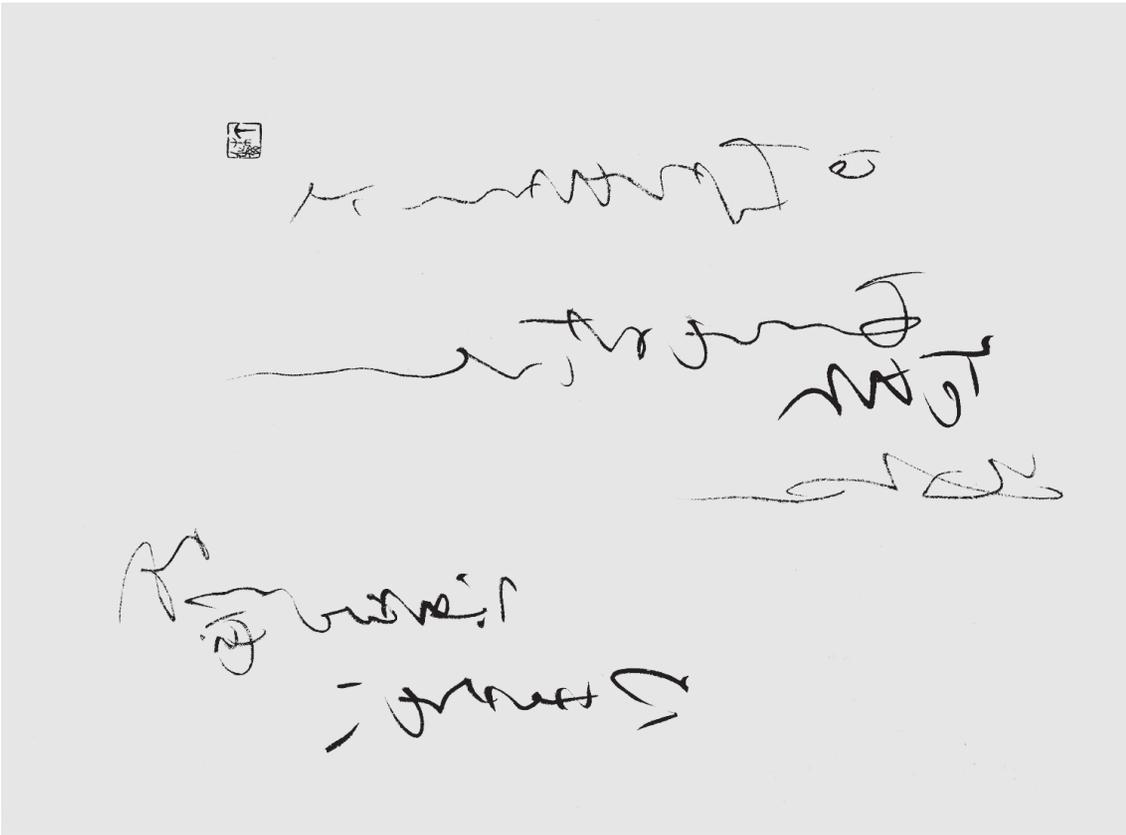
[出典] 書譜 (687) [筆者] 孫過庭 (648?~688?)
 [読み] (翰) 礼に(非なり。) 眞は点画を以て(形質と) 爲し、

[読み] 雨収まり花竹涼し
 [大意] 雨があがり花も竹も生きいきと涼しげである。

一般部毛筆かな課題

締切り 6月25日(必着)

※検定試験三段コース以上を兼ねる。



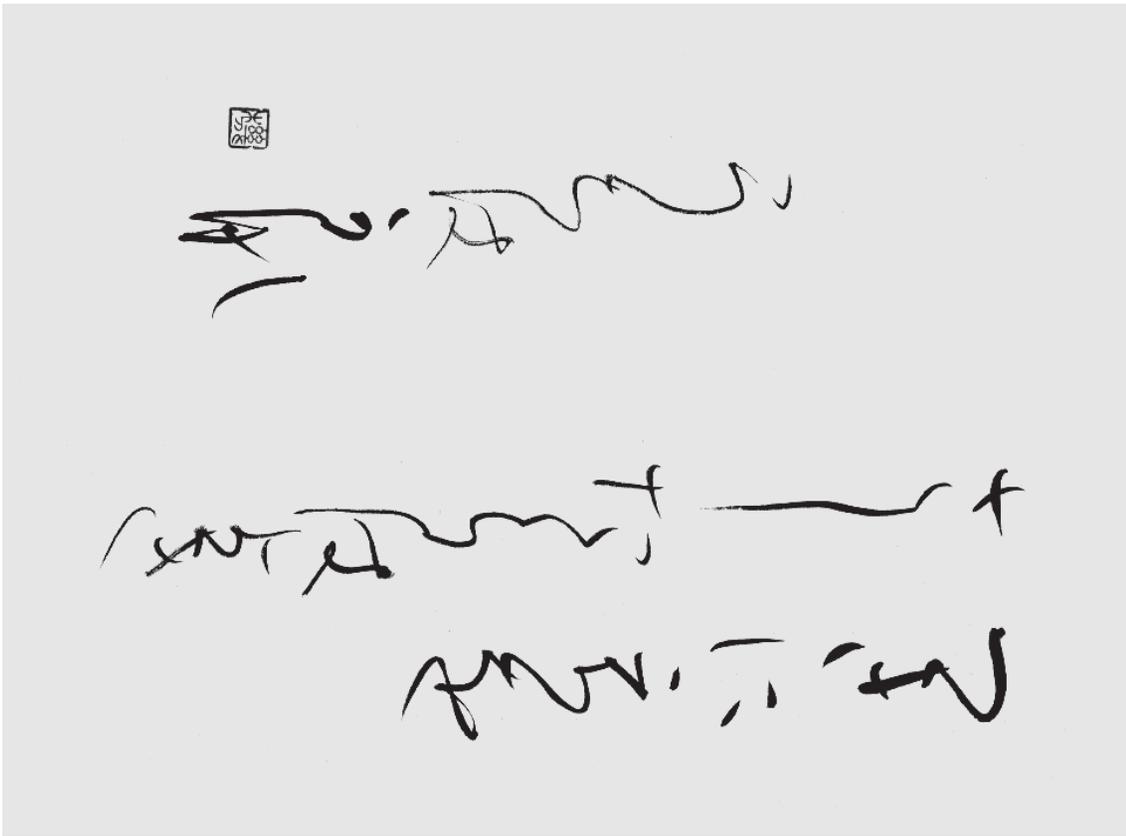
向日葵は金の油を身にあびて
ゆらりと高し日のちひさきよ

【出典】前田夕暮

【歌意】向日葵は金の油を身にあびたように輝きながら、ゆらりと高く咲いている。その真上の夏空の太陽の小さいことよ。

準初段から師範まで

※検定試験1級コースを兼ねる。



月にえをさしたらばよき団扇

新入から1級まで

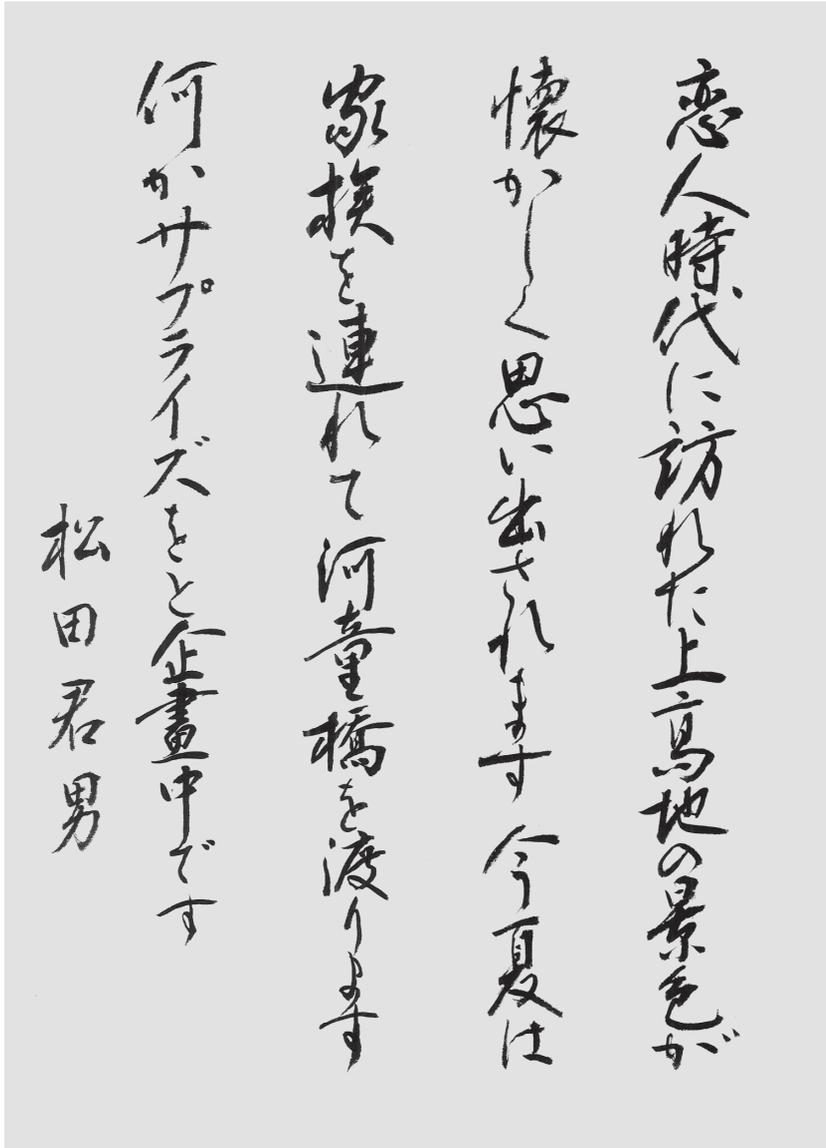
浅井機山先生書

【出典】山崎宗鑑

【句意】夏の月は涼しいものとされていた。まだ暑さがさりやらぬが、あの月に柄をつけたらよい団扇ができることであるう、の意。

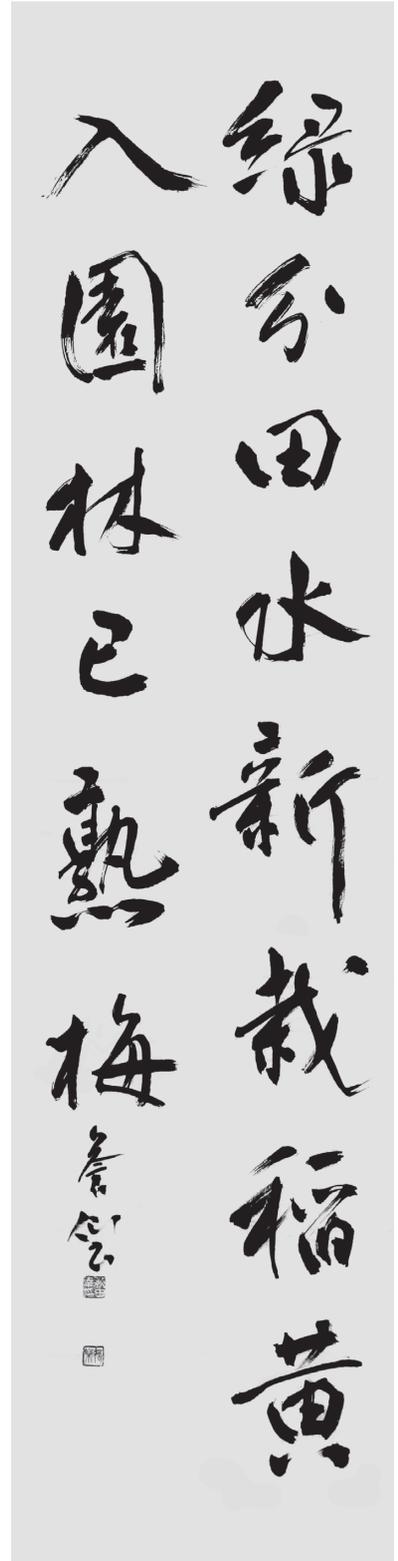
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 六月二十五日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つきしました。

(ご自分の氏名)

恋人時代に訪れた上高地の景色が懐かしく思い出されます。今夏は家族を連れて河童橋を渡ります。何かサプライズをと企画(画)中です。

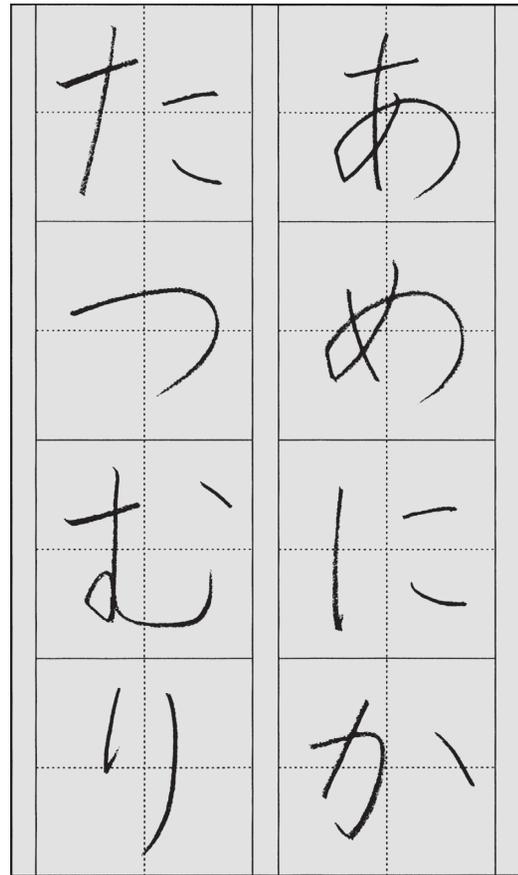
〔条幅解説〕とっつき易いスタイル、単体、太細を意識して書きました。もし書かれた作品が何となく弱く感じたら、拙作の起筆(その瞬間、紙にくいこんで運筆)を一寸見て下さい。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔大意〕田地一面に稲の苗が植えつけられて緑に、庭園の中には梅が熟して黄になっている。

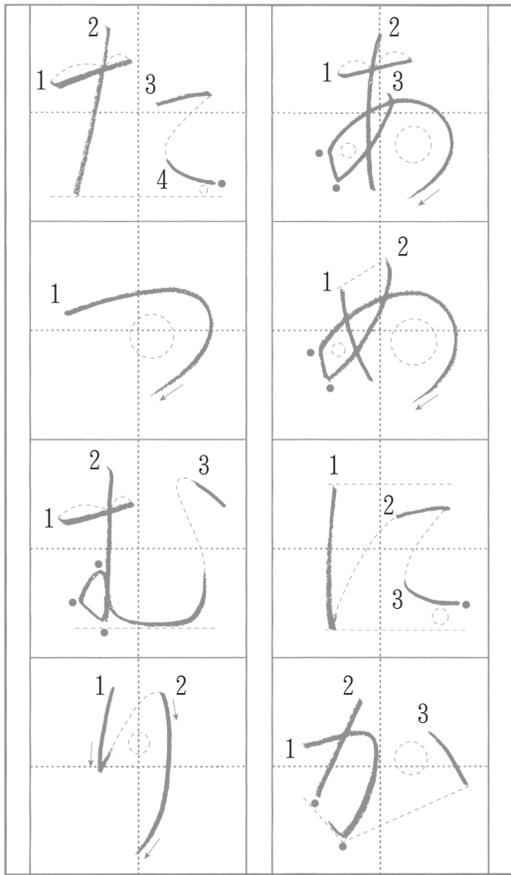
緑分田水新栽稲
黄入園林已熟梅
(居節)

よ
う
年



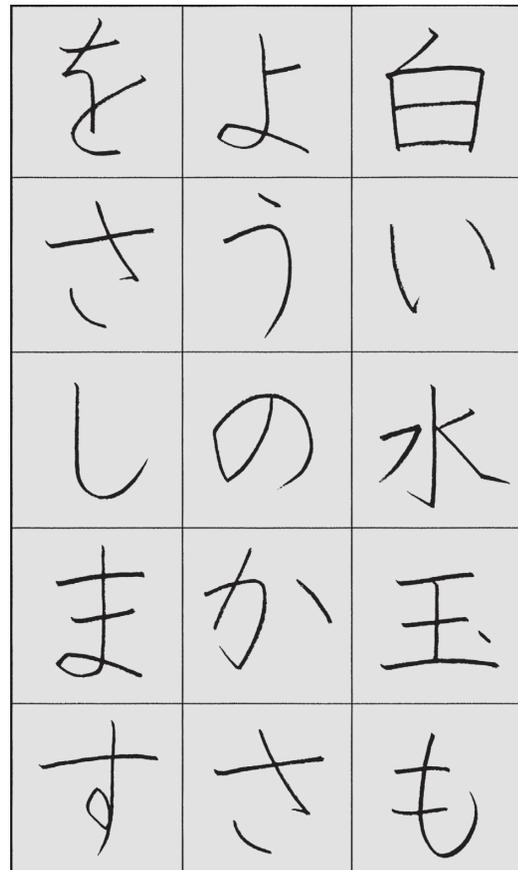
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

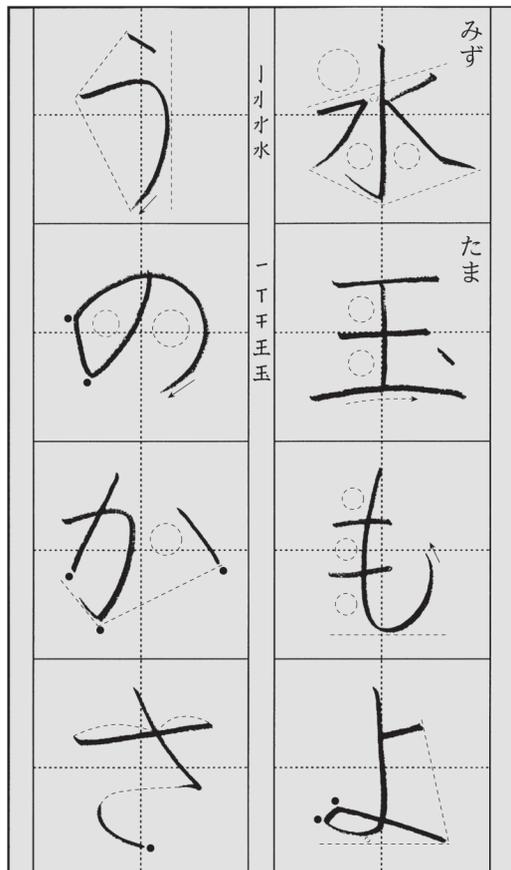
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準初段以上



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

小二年

し	入	お
い	れ	母
日	た	さ
本	お	ん
茶	い	が

準初段以上

※母^{かあ}さん＝単語としてこのように読みます。

新入～1級

小三年

の	同	三
練	で	ク
習	発	ラ
す	表	ス
る	会	合

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入～1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

た	母
日	が
本	入
茶	れ

同	ク
で	ラ
練	ス
習	合

小四年

を	追
受	加
け	注
る	文

(全員)

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法が続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

を	の	新
注	開	し
ぐ	発	い
会	に	技
社	力	術

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

発	新
力	技
注	術
会	開

小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

ノイ付付付	付 (つけ)	ス	素
ハ音音音音	創	ヤ(き)	焼
イイ付付付	作	さら	皿
イ付付付	体	え	絵

解説(よく見て習いましょう)

作	に	素
体	絵	焼
験	付	き
す	け	の
る	創	皿

小六年

(全員)

◎お手本はつけペン使用

し	を	家
心	模	具
も	様	や
新	替	壁
鮮	え	紙

中二・三年

(楷書)

る	の	海
白	窓	浴
い	か	い
砂	ら	列
浜	見	車

中一年

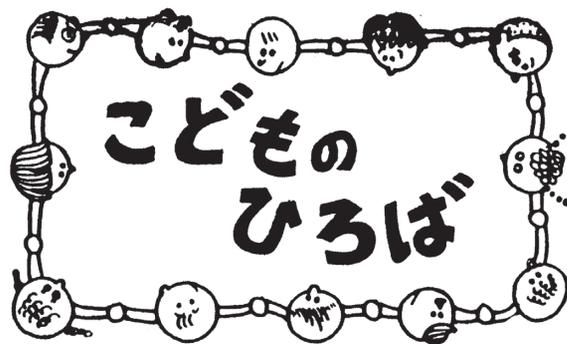
(楷書)

▼小三年以下の課題 さ さ き し ょ う せん 佐々木 小 泉 書

集	朝	青	に	町
合	九	色	あ	の
し	時	の	る	中
ま	に	橋		心
す		に		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 6月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なが たに けい こ 永 谷 恵 子 書

決	女	一	選	学
定	子	票	挙	級
し	の	差	の	委
ま	代	で	結	員
し	表		果	の
た	に		は	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

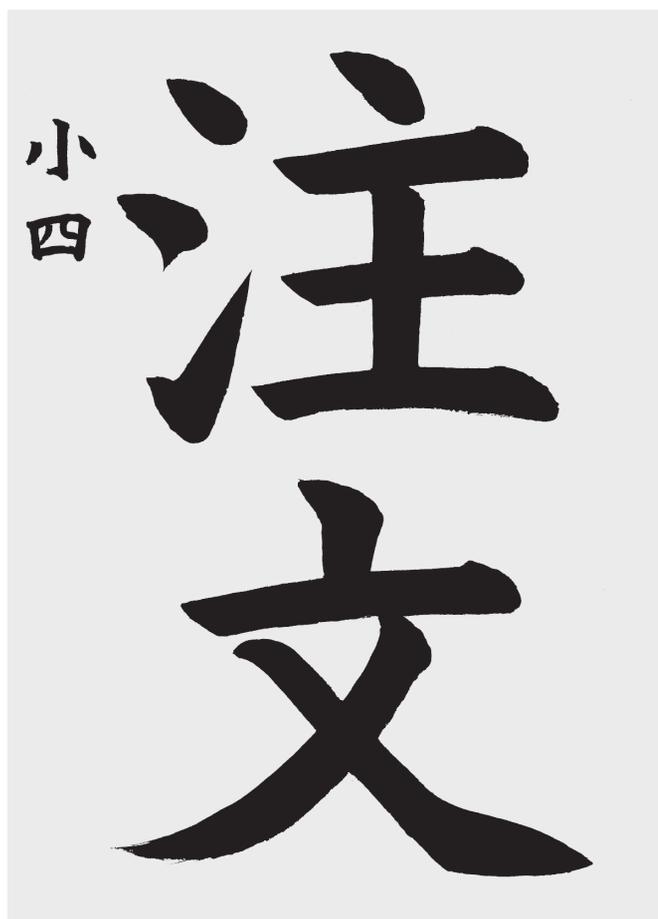
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
玉樹小華書





小三、小五年
水野香竹書

中二・三
替模
え様

小六(中二・三年)
奥村暢之書

素焼
小六

窓
模
様

素
焼
列

中一
の列
窓車